

イヤリングセールの話から View from Down Under

文・ハイランド真理子
(オーストラリア・シドニー在住)

時代はめぐる?

20年以上前、私がオーストラリアの競馬に関わり始めた頃は、日本もオーストラリアも世界的に孤島の状態にあった。その後、日本は経済的に成長して世界的なサラブレッドの名血を集め、日本競馬は世界と肩を並べるまでに力を伸ばした。一方、香港などのように英国の植民地競馬の延長でしかなかったオーストラリアの競馬は、アップス&ダウンズを経験しながら、経済力というよりはアジア競馬の隆盛とともにアジア競馬のハブになってきた。

22年目を迎えるマジックミリオンズセールも、数年前までは、日本の松岡正雄氏の落札価格が、せりの最高価格の記録として残っていた。ところが、近年では、どのせりでも100万ドルの価格が簡単に出て、4月にシドニーで行われたイースターセールでは、3日間で100万ドル以上が何と27頭も出るという“凄”ことになっている。

バブル期だった日本から見て、何でも安く、超バグン国家であったオーストラリアは、最近では、資源の需要が高く、豪ドルがほぼ米ドルと同じになり、不動産も馬も、日用品を含めて全てが高くなってしまった。そして、オーストラリアの経済の底力は、競馬産業界に於いても顕わで、馬インフルエンザで受けた何百億円の大打撃をあっという間に乗り越えてしまった。

私の好きな中島みゆきの歌詞に、「めぐる、めぐるよ、時代はめぐる」という一節があるが、日本にお金が集まり、またオーストラリアの安い馬を買いに来る日もあるのだろうか……。

マジックミリオンズセール

いつもは、マジックミリオンズで幕を開けるオーストラリアのイヤリングセールは、馬インフルエンザの影響で、今年はメルボルンのプレミアイヤリングセールから始まった。このせりは、売り上げの記録を更新した1月のNZ(ニュージーランド)のせりの後に行われて、プレミアセール始まって以来の大成功を収めた。それを受けたマジックミリオンズセールは、1500頭以上もの馬を大量に上場。NZとメルボルンのせりの後だけに、その影響を受けて格安になってしまった馬もあったようだが、結果は上々で、8日間のセールのうち、セレクト

セッション4日間で686頭、1億700万ドル(約107億円)を売り上げた。種牡馬別では、リダウツチョイスは、25頭が売却され、平均価格が67万ドル(約6700万円)、総売り上げは日本円で16億円を超えた。この中には、220万ドルでパティナックファームに落札された2頭がいる。ほかでは、エンコスタデラゴが約9億2000万円、クールモア牧場の初年度種牡馬、ファストネットロックが約7億6000万円を稼ぎ出した。

話題のパティナックファーム

馬インフルエンザの後の朗報として、前回のレポートでお知らせしたように、ダーレーによるインガムグループ買収の話があった。さらにその後には、オーストラリアの馬産業界に彗星のように現れた、パティナックファームの話題で大騒ぎとなった。同ファームは、今年のマジックミリオンズセールで、何と1900万ドル以上の買い物をしている。もちろん、その中には、前述の、最高価格のリダウツチョイスも2頭入っている。これまでの最高総購買価格は、南アフリカの富豪のためにレアー調教師が落札した1100万ドル。

パティナックファーム? そういえば……、と人々は思い出す。今年のNZのセールで700万NZドルの買い物をしたのも、3月のメルボルンのプレミアセールで総額350万ドルの買い物をしたのもパティナックファームである。人々の関心は自然にオーナーに集まり、そしてそれが31歳の若い実業家だと知って、更に驚くことに……。話題のオーナーは、ネイサン・ティンクラ氏。現在は、炭鉱を所有するティンクラグループの総帥である。彼の夢は、サラブレッドのグローバルプレーヤーになること



マジックミリオンズセールで、220万ドルという値がつけられたリダウツチョイスの産駒

だと、ティンクラ氏に代わって同ファームのジェネラルマネージャーは、話してくれた。実際、昨年ハンターバレーにある二つの牧場を買収、現在は、スタリオンの新しい牧場をスタートさせている。パティナックファームとは、彼のお祖父さんが、アイルランドに持っている牧場の名前だという。彼には、脈々とホースマンの血が流れているらしい。

前述のとおり、今年スタートさせた牧場に、G Iの勝ち馬カジノプリンス、今をときめく人気種牡馬ハズネットの息子ハッソン、チーフズクラウンの息子、ビューティフルクラウンを繋養。そして、ヴィクトリア州の牧場には、アグネスワールド産駒で唯一のG I勝ち馬、ワンダフルワールドを繋養している。

いつも、お経のように言うが、オーストラリアのせりは益々グローバル化している(これは、なぜ、日本の競馬も生産界もグローバル化しないのという、キモチも込めているのだが……。今年マジックミリオンズで、パティナックファームの59頭に次いで、10頭の馬を372万ドルで購入したのは、最近、シドニーに厩舎を開業した南アフリカのレアーレーシング。3番目にお金を使ったのは、香港ジョッキークラブ。他に、英国のバジャーズブラッドストックやNZのディーン・ホーソーンブラッドストックや、BBAアイルランドもトップ10に名を連ねている。

イングリス・イースターセール

イングリス社のイースターセールも、例外ではなかった。3日間で、502頭が上場されて、売却率85.1%、全部で383頭が落札された。総額1億4383万ドルと、日本円で143億円以上が取引された。平均価格はこ



ヴィクトリア州のインデペンデントスタリオンズで繋養されている、ワンダフルワールド



N・ティンクラリー氏について報じるオーストラリアの新聞

ナックファームがバックアップしているとされる。続いて4位は、マクトゥーム殿下のシャドウエル・オーストラリアなので、この分を合わせると、ダーレーグループは、全部で、日本円にして24億円以上を使ったことになる。他には、BBAアイルランド、南アフリカのチャールズ・レアード調教師、香港ジョッキークラブなど、お馴染みの国際的なバイヤーの名前がランキングに入っている。吉田勝己氏も「買えないよ」と言いながら、5頭を約1億7000万円で購入した。同氏の南半球生まれの馬たちは、日本で順調に活躍しているようで、この原稿を書いている間にも、キンシャサノキセキが函館スプリントステークスで優勝したとのニュースが入る。安い買い物になるかも知れない。

イースターセールのサイアーランキング

イースターセールでも、サイアー別ランキングのトップは、アローフィールド牧場のリダウツチョイスであった。49頭が総額、日本円にして約38億8000万円で売れた。平均価格は何と7900万円以上になる。2位に入ったのは、アローフィールド牧場の宿敵、クールモア牧場のエンコスタデラゴ。この二つの牧場が、かつてデインヒルをオーストラリアに持って来たのだが、アローフィールド牧場は、色々ないきさつで、

その株をクールモア牧場に売ってしまった。そのデインヒルの息子のリダウツチョイスで、アローフィールド牧場が今、世界のクールモア牧場を相手にトップに立っているかと思うと、運命は不思議だ。もっとも、これは、長く生きていないと分からないのだが。

もちろん、クールモア牧場も、負けてはいない。今回、売り上げの総額で3位に入ったのは、クールモア牧場のファストネットロック、こちらもデインヒルの息子だ。母は重賞勝ち馬で、ロイヤルアカデミーIIを父に持つピカデリーサーカス。オーストラリアにおけるせりのシーズンはまだ終わっていないが、イヤリングセールの初年度産駒サイアーランキングのトップに、このファストネットロックが入るのはほぼ間違いないようだ。今回のセールでも、30頭が日本円にして約10億円で売られた。他に、

スリッパ優勝馬の父であるモアザンレイディが、平均価格日本円にして約5170万円の価格に達した。尚、ベルエスプリ、ハブネット、ストラヴィンスキー、レッドランサム、シャマダールなども順調に売り上げている。

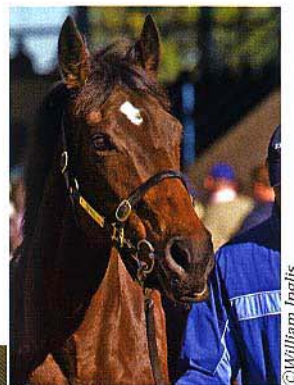
お金はめぐる

オーストラリア在住の私は、できるだけ多くの日本人がオーストラリアに来てオーストラリアの馬を手し、ぜひ、日本で活躍をして欲しいと希望しているのだが、オーストラリア人の欲しがる血統はこれまでの説明でも分かるように、どうしても、値が張ってしまう。むしろ、この高額な馬を避けて、慎重に日本に適性のある馬を選べば、いい血統の馬が手頃な価格で買えない事はない。

そうはいうものの、またまた高額記録をお話しなければならない。今年のイングリシ社のブルードメアセールでは、デインヒル産駒の繁殖牝馬ミラノヴァが、繁殖牝馬の最高記録約5億円をだした。これは、前述した故ジム・フレミング氏のタイレルスタッドのリダクションセールとして上場されたもの。昨年、ヴィラー・ジュデフォーチュンが340万ドルで落札されたが、今年はそれを大幅に上回った。このミラノヴァは、エンコスタデラゴを受胎していて、バイヤーは、クールモア牧場。牧場長の話によると、今年度はスタリオンロースターに今年新たに加わった、ハラダサン種の種付けが決まっているという。同馬は、つい先日英国でGIクイーンアンステークスを勝ったばかり。クールモア牧場は、ファストネットロックとハラダサンで、アローフィールド牧場と闘う予定なのだ。オモシロイ。

さて、イングリシ社のセレクトブルードメアセールは、総額、日本円で約21億円を売り上げ、オーストラリアの競馬界の好況さを更に顕著にしている。いつも話すことだが、せりで馬が売れば、売れただけ牧場が馬を買うことになる。

中島みゆきの歌のように「めぐる、めぐるよ、お金はめぐる」だ。



好景気を反映して、イングリシ・ブルードメアセールで500万ドル(5億円)の値がついた、デインヒル産駒のミラノヴァ

れまでで最高の37万6000ドル、日本円にして約3760万円だ。最高取引額は270万ドル、リダウツチョイスの牡駒である。

今回は、日本から吉田勝己氏が来ており、セリ場でちょっと話を伺ったが「いやあ、あまり高いので、手が出ないよね」と言いながら、「もっとも、自分はここで売っているからいいけど」と、天才ホースマン&ビジネススマンの勝己らしいコメント。さて、イースターセールでのトップのセラーは、クールモア牧場。今年は39頭を売り、日本円で16億円以上売り上げた。次は、リダウツチョイスの種付けで儲け、更にリダウツチョイスの産駒を売って儲けて、笑いが止まらないアローフィールド牧場。22頭を、日本円にして13億円以上で売り上げた。次は、昨年当主のジム・フレミング氏を失ったタイレルスタッドが、12頭を日本円で11億円以上の売り上げ。息子のポール氏は「亡くなった父のいい供養になります」と語ったと言われる。

ダーレーとインガムブラッドストック

バイヤーのランキングでは1位と2位に、先日大きなニュースになったばかりのダーレーとインガムブラッドストックが並んで入り、またまた大きな話題になった。溢れるように資金があるのは明白だが、約500億円を払い、更にまた大きな買い物をしたダーレーは、今、オーストラリア競馬に並々ならない意欲を燃やしているように見える。そして、インガムブラッドストックは、生産と競走馬の全ての資産を(約500億円という)高額でダーレーに売却した。ちなみに、ダーレーは20頭をおよそ19億円で購入、インガムブラッドストックは24頭に約18億円支払った。3位に入ったのはアントニー・カミングス調教師。これは、前述のパティ



イースターセール最高価格で取引された、リダウツチョイス産駒

©William Inglis

LOT 513	512	\$300,000
A\$ 5,000,000	511	\$550,000
	510	\$300,000
	509	\$700,000

©William Inglis